

不安の中に希望のたねをまく

～ミャンマー研修センターの今～

2021年2月1日のクーデターから4年半。ミャンマー国内では、約320万人が避難生活を強いられるなど困難に直面しており、現地のオイスカスタッフは不安を抱えながらも前を向き、日々研修や農場の管理に励んできました。

頑張る彼らの姿をお伝えする誌面を準備していたところ、3月28日にミャンマー中部を震源とする大地震が発生。さらなる不安と困難が彼らを襲いました。落ち着きを取り戻してきていた地震前までのセンターの様子、そして再び混乱の真ただ中にあるセンターの今を、本部・海外事業部の藤井啓介がお伝えします。



クーデター以降の 現地スタッフの挑戦

「以前と比べて、センターの朝は静かになりました」

最近の様子を聞くと、スタッフのイーシュエジンウィン（愛称・イー）さんが一言。国内外のオイスカ研修センターでは、朝の点呼や国旗掲揚を行います。ミャンマーでは治安悪化を理由に、現在は実施されていないのです。

イーさんが勤務するミャンマー農業指導者研修センターは、2017年に国内2番目のセンターとしてピョーボエ郡に開所、19年までの3年間で、63人の農村青年が10カ月間の研修を修了しました。20年からは、コロナ禍や情勢悪化で研修を一時中止せざるを得なくなり、その間の農場管理や食品加工などは、スタッフのみで行っていました。イーさんは当時の様子を、「研修生がおらず静かで、張り合いがなかった」と振り返ります。

そのような中でも、農業研修を希望する農村青年のために本来のセンターの姿を取り戻したいとの思いで、23年から研修を再開。情勢を考慮し



「子供の森」計画のエコキャンプの様子(帽子の女性がイーさん)

て、期間を5カ月に短縮し、人数を10人（男性7人、女性3人）に制限した上で、有機栽培による稲作・蔬菜栽培、養鶏、食品加工、日本語など、実習を重視した従来のカリキュラムを実施しました。今年2月3日には、24年度の5期生13人（男性6人、女性7人）が修了式を迎えています。

研修生の大半が10〜20代で、センターのある中央乾燥地域の出身です。農家出身者もいれば、オイスカで初めて農業に挑戦する青年もいます。修了式では、「種まきから収穫まで、実践を通してすべて有意義だった」時には厳しく、時には優しく先生に指導してもらった。同世代の仲間と生

活を共にして、友情も芽生えた」といった感想が聞かれました。厳しい情勢の中でさまざまなバックグラウンドを抱えながらも、仲間とともに研修に励んできたのだと思います。その彼らが成長し、将来各地で活躍してくれることがスタッフやセンター、ひいてはミャンマーの明るい希望につながっていくはずです。

一方、エサジョ郡に位置するミャンマー農村開発研修センター（第一センター）は、1997年に開所し、これまで430名の青年に研修を実施。その他、WFP（国連世界食糧計画）との連携事業など多くの農村開発事業に取り組んできましたが、クーデター以降、治安が安定せず、現在も研修を再開できていません。しかし、スタッフが農場管理のほか、21年の「ミャンマー支援・緊急募金」を活用した食糧支援や農業支援を懸命に続けています。

両センターは、これまで多くの人々の努力と協力によって支えられてきました。そして今、現状の情勢下で奮闘しているのは、オイスカで研修を修了したOB・OGです。

私は、06〜13年にミャンマーでの駐在経験があり、帰国後は本部の担当者として現地の活動を間近に見てきました。彼ら、彼女らのひたむきさは、日々頭が下がる思いです。

地域のために できることを

コロナ禍やクーデター発生前のような落ち着きを少しずつ取り戻してきたミャンマーでの活動を再び大混乱に陥れたのは、3月28日に発生した中部地域、マンダレー付近を震源とするマグニチュード7.7の大地震でした。第一センターには被害はありませんでしたが、震源地から近い農業指導者研修センターは大きな揺

れに見舞われました。幸い、スタッフや研修生に負傷者は出ませんでした。天井が落ちる、倉庫の壁が崩れるといった建物への被害が確認されました。

スタッフはこれまでの緊急支援の経験を活かし、被害情報や支援ニーズの把握に努め、役場などと連携し、ガレキ撤去のための重機用の燃料支援のほか、被災者やその救出のために活動するボランティアに飲み水を提供するなど、迅速に行動を開始。その後もセンターで準備した弁当を配布するなど、緊急支援活動を続けてきました。最高45度にもなる厳しい環境の中、被災者にいち早く物資を届けるた



上／壁が崩れてしまったセンターの倉庫
下／ガレキ撤去などに従事する住民らに弁当を手渡す

め、懸命に活動を続けています。スタッフからは、日本からの支援に対する感謝の言葉が届いています。

緊急支援が一段落したら、農村の復興が進むよう長期支援に切り替え、これまで同様、地域住民に寄り添った活動を続けていきます。

引き続き、ミャンマーへの温かいご支援と関心をお寄せいただきたく、お願いいたします。



ミャンマー農業指導者研修センター スタッフと研修生（5期生）

ミャンマー農村開発研修センター スタッフ



海外事業部 藤井啓介

震災前の彼らの
笑顔が取り戻せるよう
応援してください！

支援方法は14ページを
ご覧ください！